



「思い出の修学旅行」

from 豊山中学校

五月十五日から十七日の二泊三日の日程で、本校三年生が東京・伊豆方面へ修学旅行に出かけました。

「3Kyouu」協力・はじめ・健康」をスローガンに掲げ、実行委員が目標や服装等のきまりについて話し合いました。また、事前の調べ学習から当日に至るまで、協力して取り組み楽しい修学旅行にすることができました。

一日目は、国会議事堂を見学し、その荘厳さに多くの生徒が感動しました。また、その後出かけた、東京ディズニーランドでは、目当てのアトラクションを楽しんだり、お土産を買ったりと、楽しい一時を過ごすことができました。

二日目は、東京都内分散バスツアーに出かけました。読売新



聞東京本社・日本銀行本店・東京証券取引所・警視庁本部等、普段なかなか見学することができない所を訪れることができました。

三日目は、伊豆高原で体験学習を行いました。銀細工や吹きガラス等体験し、各自思い出の品を作ることができました。

あっといふ間の二泊三日でしたが、天候にも恵まれ、無事に行つて来られたことは何よりでした。この旅行を通して、協力することの大切さを学び、互いの友情を深めることができたことと思います。これからの学校生活において、ここで学んだことを生かして、さらに成長してくれることを期待します。



私の航空史

岡野允俊

満八十九歳を迎えて

あの日（昭和二十年八月十五日）から七十余年を経た平成三十年一月、当時十七歳の少年も八十九歳を迎えた。本来なら十七歳で散華したはずの人生を八十九歳の今日までまだ生きながらえ、連合軍の爆撃で灰燼と化した故国日本の再建に寄与してきたが、振り返ってみれば七十年という長い道程であった。

昭和二十年三月、予科練の教程を終え、四月から予科がとれ、いよいよ飛行練習生となり九三中練（赤トンボ）での飛行訓練が始まるはずであったが、突然、飛行訓練は中止となった。連合軍が日本本土上陸作戦を発表したからである。それによると日本の台風シーズンが終わった秋頃、連合軍が九十九里浜と鹿児島志布志湾に上陸。北と南から東京を攻撃し日本を占領するという作戦であった。これに対し一億総決戦でまず甲十三期生は飛行機で日本近海を遊弋する連合軍の艦艇を空から攻撃し、十四期は爆装モーターボートで

敵艦艇に体当たり攻撃（震洋特攻）を、我々十五期は海底に潜み、敵上陸用舟艇が頭上を通過するとき浮上してそれを爆破する（伏龍特攻）、それをかいくぐって上陸した戦闘部隊の戦車を破壊するために海岸に掘られた穴に潜み、頭上を通過する戦車の下腹を爆破し進行を止めるという（夕コソボ特攻）は十六期が担当した。だが幸いにも何れの特攻隊も連合軍上陸部隊を迎え撃つこともなく、八月十五日戦争は終わった。もう二、三か月終戦が遅かったら今日の八十九歳は当然なかった。当時はくやしい思いをしたが、今となつては幸いであつた。あれから七十余年も生きながらえたのである。ときに十七歳以来七十二年の日々を過ごしている。なな人生体験を経て今日を迎えている。ご苦労さんでした、もう休んでもらつていいよ、という声も聞こえる。何の役にも立たないのなら死んだほうが為だという時代に育つたせいかな何もせずに（ものの用にたち得べしとも思われず）ボーっとしているのは罪悪とすら感ずる。この先できるのは何だろう・・・と次の目標を探しその成果に向け、日本を背負つて立つ若い人々には迷惑であろつが、もう少し頑張つてみるか。